

# みき通信

日本共産党 町議会議員  
くぼたみき 活動報告



第69号 2017年4月30日

発行 がんばれ くぼたみきの会

連絡先 875-7126 (阿部)

## 住んでよかったといえる町に

今年1月の葉桜での報告会に続き、4月9日上山口でくぼたみき議員の議会報告会が行われ、一般質問で取り上げた「ふるさと納税」「子育て支援」「高齢者福祉」「消防団員の処遇改善」などの報告がありました。

様々な施策で人口減少を食い止めようとしている近隣自治体に比べ、町長の言う「町の外に出て戻ってこなくともよい」（いつか）住んでみたいと思える町”でよいのか。「消極的だ」と言うみきさんの指摘に、もっと子育て支援や高齢者福祉に力を入れて、生涯にわたって安心して暮らせる町として定住につながる施策を求める声が多く出されました。

要介護状態になるのをできるだけ遅らせるため（予防介護）、国は高齢者の体操などの取り組みを促しています。葉山町でも、葉山体操や貯筋体操の普及に力を入れ、要支援者をサポートするボランティアの養成に熱心ですが、専門の職員を配置するなど、地域を支える取り組みには至っておりません。

小児医療費の無償化は、他自治体が対象年齢を拡大し、今では県内の半数を超える自治体が、中3まで無償化しているとか（葉山町は小6までなので、みきさんは今回、中3まで拡充を要望しました）。

高齢者問題でも、タクシー券やバス代補助などを含め、町独自の施策が必要です。

3月27日～31日、国連で核兵器禁止条約を結ぶための会合が開かれ、6月の2回目の会議で条約案の採決を目指すところまで進みました。今や核廃絶の流れは世界の多数を占め、反対する核保有国や日本などの同盟国は追い詰められているというのに、ほとんど報道されていません。

連日、北朝鮮の動向とこれに力で対抗しようとする米国、それを支持するアベ首相の報道が流れ、メディアが国民の不安をあおる中で、戦争を避けるための冷静な対応が求められています。

## 地域密着型特別養護老人ホーム

### 建設予定がなくなる

町議会議員 くぼた みき

平成29年中の開設を目指していた地域密着型特別養護老人ホームの整備は「オリンピック需要等の影響による建設費の高騰の折、建設業者から増額の要求を受け資金不足に陥った」と開所予定事業者からの報告に、町は努力を尽くすよう指示をおこないましたが、資金不足補填が確保されず、事業実施の目処もたないことから、県に申請していた「地域密着型サービス施設等整備費補助金」等を取り下げました。補助金がない状態での建設の可能性はゼロに等しいと、そのため建設の話そのものがなくなってしまいました。この特養建設は、これまで何度も状況が変わり不安視していましたが、最終的にはこのような結果となってしまいました。

施設を待たれる方は少しでも早く建設をと考えています。29年度中の動きを質問しましたが「建設予定があったため、新たな建設補助金申請を行ってはず、補助金がない状況で事業所の募集はできないと考える」という答弁。金額的には1円も支払っていないため、町の実質的な損失はないとはいうものの、第6期高齢者福祉計画中に出来るはずだった施設建設は7期にずれ込んでしまいます。29年度予算委員会で特養待機者は119人でした。「7期以降にもう一カ所必要という計画と並行して進めていくのか」という質問には「7期計画策定時のアンケートの結果や葉山の状況等を判断し、計画をたてていきたい」との答弁に、積極性は感じられませんでした。特養入所を待たれる方には大きな痛手ではないでしょうか。以前、数度流れた保育所建設計画では、町の働きかけもあり、国有地を30年間貸与という形で建設されました。特養建設に向けても町側も努力すべきと考えます。

施設整備だけでなく、今後も介護を必要とされる方への手立てを求めています。